

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 27 年度教育研究報告書

| | |
|-----------------------------------|--|
| <p>事業課題名</p> | <p align="center">「ゾミア」地域における少数民族の社会経済動向に関する研究会</p> |
| <p>代表者名</p> | <p align="center">藤田幸一（東南アジア研究所・教授）</p> |
| <p>事業概要 (600 字程度)</p> | <p>William van Schendel が提唱し、James Scott (2009)で有名になった「ゾミア」は中国貴州省・雲南省から東南アジア大陸部北部をへてインド北東諸州やバングラデシュのチッタゴン丘陵部までの山岳地帯で、「国家から逃避してきた」多様な少数民族の居住地域である。近年、中国の「南下政策」が顕著になる中、インドも対抗して勢力を伸ばしつつある。同地域の少数民族の運命はどうなるのか？彼らは事態の動きに対していかに主体的に対応しようとしているのか？中国、ベトナム、ラオス、ミャンマー、インド、バングラデシュなど異なる国家の体制と政策は、彼らにいかに異なる影響を与えているのか？</p> <p>以上のような問題関心の下、日本全国から先端的な研究者や大学院生を招聘し、研究会を通じて知識や経験の蓄積をねらうのが本事業である。将来のより大掛かりな研究プロジェクトの組織化をめざし、ネットワークを構築・発展させることを目標とする。</p> |
| <p>成果の概要 (800 字程度)</p> | <p>2015 年度は、他の資金源も組み合わせながら、合計 10 回の研究会を実施した（詳細は、別添の「ゾミア研究会リスト」を参照）。講師の招へい数はのべ 18 人、うち国内 8 人（京都大学 3 人、東京外国語大学 2 人、国士舘大学 1 人、名古屋大学 1 人、東洋大学 1 人）、海外 10 人（USA6 人、タイ 2 人、ミャンマー 1 人、台湾 1 人）であった。</p> <p>研究会の対象地域は、中国・雲南省からミャンマーのコーカン、ワ、シャン、パラウン、カチン、インド北東部、さらには東南アジア海域世界までも含む非常に幅広い「ゾミア」地域であり、毎回多くの参加者を得て、非常に活発な議論が行われた。</p> <p>ねらいとする研究ネットワークは、一連の研究会を通じて非常に広がったことができる。</p> |